

Genius English Readings

読解力と自己表現力の向上を目指して

加藤治之



①はじめに

リーディングの指導を行うとき、語彙・文法指導・内容理解にとどまることなく、(1)自己表現につながる英語の内在化、(2)「読む」楽しさ、(3)読書量の拡充にも留意したい。

(1)について

「読んでわかれば終わり」ではなく、音読による身体への「取り込み」をさせ、それを基に自己表現につなげていくところまで指導したい。

(2)について

生徒には「英語を読むことは楽しい」という実感を持たせたい。そのためには教授者が指導に工夫を凝らさねばならないし、教科書選定も慎重に行うべきである。なんと言っても題材の善し悪しが決定的意味を持つからである。

(3)について

勤務校の英語 I の教科書の総語数は、約7,300語である。英語IIでこの2倍、リーディングで3倍の量に触れるとしても、 $7,300 \text{語} \times 6 = 43,800 \text{語}$ で、ペーパーバック数十ページ分にしかない。副読本を用いた多読の必要性がここにある。ただし、本稿では多読については扱わない。

②授業の実際

以下は、Lesson 3 “The Book of Thoughts” を題材にした授業の実際である。

(1) 課の概要紹介

主人公 Chester が偶然手に入れた古びた本 “The Book of Thoughts” は人の心を読み取ることができた。同僚が自分のことをどう思ってい

るかをその本で確かめることによって仕事上の成功を収めた Chester だが、周囲の人々の自分に対する評価をその本で知り愕然とする。他人の真意を知りたい気持ちはついに大好きな Dorothy にまで及ぶが、意外な結末に終わる。

(2) 指導手順と配当時間

①Oral Introduction

新しい課に入る初めの授業時にのみ行う。時間は1分程度。軽く済ます。

②単語テスト (②～⑤を1セットとしてセクション単位で実施し、課の最後まで繰り返す。これが一度目の通読になる。2時間配当)

i) 英→日・日→英の問題。重要語句に絞り、フルセンテンスで尋ねる。

ii) 単語リスト (単語テストに正答を記したものを配布し、各自添削させる。

③単語ペアワーク

発音練習後、単語リストを用いペアで英→日・日→英のクイックリスポンス練習をする。

④大意把握

i) 1セクション分を印刷したテキストを黙読させる。時間は100wpmのスピードを基準にする。(e.g. Section 1は397語なので4分間)

ii) 大意把握に必要な質問を英語で行う。生徒は答えを含む英文に下線を引いていく。

iii) ii) の質問一覧を配布し、答えを確認する。

⑤文法指導

重要または難解な文法事項を簡潔に説明したハンドアウト (練習問題付き) を配布し、家庭学習させる。(文法はすでに一通り学習しているので、授

業で詳しく取り上げることはしない)

⑥細部理解 (二度目の通読。1時間配当)

音声教材を聞かせながら Finding Facts 型の質問と指示語についての質問を英語または日本語で行う。

⑦主体的読み (三度目の通読。⑧と併せて1時間配当)

本文に直接述べられていないことについて Making Inferences 型の質問を英語または日本語で行う。本課では Chester の思いが中間話法で語られていると思われる箇所に下線を引かせた。課によっては生徒の様々な意見を聞くこともある。

⑧テキストの全文訳の配布

内容確認の一助として配布する。生徒はその場で疑問点を確認する。机間巡視して質問に答える。

⑨音読 (1時間配当)

オーバーラッピング・シャドーイング (この2つの訓練はテキスト全文が対象)・リプロダクション・日英逐次通訳練習 (この2つの訓練は、時間の制約上、テキストの一部のみ) を行い、英語の内在化を目指す。紙幅の都合上、日英逐次通訳練習の手順のみ記す。

[第1ラウンド] T: センスグループごとに「頭ごなし訳」(e.g. “I saw her at the station / ... とあれば「私が彼女と会ったのは駅で…」」とするような訳し方) を言う。

S: センスグループをテキスト上にスラッシュで区切り、テキストを見ながら一斉音読する。

(T→S→T→S…と続く)

[第2ラウンド] T: 同上。

S: テキストを見ずに一斉に英訳を発話する。

[第3ラウンド] T: 2つのセンスグループごとに頭ごなし訳を言う。

S: 同上。

[第4ラウンド] ペアワークで第2と第3ラウンドの練習を行う。

⑩リレーリテリング (⑪と併せて1時間配当)

4～5人単位のグループに分け、メンバー1人

ずつが配布された日本語による質問に順次英語で答えていくことにより、グループ単位で課全体の要約をする。完結するまで何順も行う。単に質問に答えるのではなく、グループとして協力し合っ

⑪感想・意見ライティング

課のテーマに関する Personal Involvement 型の質問に5分間で感想や意見を英語で書き、数人に発表させる。賛否両論が出そうな質問を設定する。本課の場合、次のような質問を行った。

At the end of the story, *the Book of Thoughts* was gone. Do you think it good or bad for Chester? And why?

女子生徒の作文 (原文ママ): I think it was good that *the Book of Thoughts* was gone. I have some reasons about that. First, he was going to know her thoughts. It means, in my opinion, he was not sure of her love to him. He must trust her to love him. Second, it is more interesting to communicate with others without knowing their thoughts.

男子生徒の作文 (原文ママ): I think it was bad. I feel anxiety. If someone had *the Book of Thoughts*, I read their mind before but next, my mind will be read by them. I never want my mind will be read. Never. So I'll be afraid.

⑬おわりに

本課の結末を予測できた生徒はほとんどおらず、この意外性が生徒を引きつけた。最後で課した作文の発表時にはクラスが賛成・反対に分かれて盛り上がった。生徒は音読やリレーリテリングによりある程度本文の英文を内在化しており、短時間で感想を書き発表する基礎を作ることができた。内容のある読み物をベースにして生徒の相互交流が深まることは、授業の醍醐味である。

(かとう はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校教諭)